

- 問1 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|--|---|
| 1. 仏教の伝来にともない、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため | 2. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため | 3. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため | 4. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため |
|---------------------------------------|---------------------------------------|--|---|
- 問2 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------|--------------------------|----------------------|------------------------|
| 1. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落 | 2. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落 | 3. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落 | 4. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落 |
|-----------------------|--------------------------|----------------------|------------------------|
- 問3 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---------------------------------------|---|---|
| 1. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。 | 2. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。 | 3. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。 | 4. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることによって死者の霊を慰める役割を果たした。 |
|--|---------------------------------------|---|---|
- 問4 弥生時代に環濠集落が形成されるようになった直接的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 気候の寒冷化により、家畜を野生動物の襲来から守るための囲いが必要になったため。 | 2. 大陸から仏教が伝わり、寺院を中心とした新しい町づくりが推奨されたため。 | 3. 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。 | 4. 大規模な土木技術が導入され、洪水などの自然災害から住居を守ることが目的となったため。 |
|--|--|--|---|
- 問5 1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。（2019年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------|--------|---------|--------|
| 1. 漢委奴国王 | 2. 卑弥呼 | 3. 親魏倭王 | 4. 志賀島 |
|----------|--------|---------|--------|
- 問6 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。（2021年 愛知県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 竪穴住居 | 2. 高床倉庫 | 3. 環濠集落 | 4. 高地性集落 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問7 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。（2022年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。 | 2. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。 | 3. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。 | 4. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。 |
|--|--|---|--|
- 問8 歴史上の出来事を整理する際、100年単位の「世紀」という区分が用いられます。例えば、西暦300年という年は、何世紀の終わりの年にあたりますか。（2023年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1. 3世紀 | 2. 4世紀 | 3. 2世紀 | 4. 30世紀 |
|--------|--------|--------|---------|
- 問9 九州北部の福岡県付近で発見された弥生土器に象徴される時代には、大陸から青銅器の技術が伝わりました。この青銅器の一つである「銅鐸」は、日本において主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。（2016年 長崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------|---------------------|-------------------------------|
| 1. 大陸との交易において支払いに使われた、和同開珎などの貨幣 | 2. 脱穀を行う際に使用する、千歯こきなどの農具 | 3. 豊作などを祈るための、祭りの道具 | 4. 武士が戦場で敵を攻撃するために使用した、実戦用の武器 |
|---------------------------------|--------------------------|---------------------|-------------------------------|
- 問10 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。 | 2. 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。 | 3. 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。 | 4. 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。 |
|---|--|--|---|
- 問11 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|---------|-------|
| 1. 青銅器 | 2. 埴輪 | 3. 磨製石器 | 4. 鉄器 |
|--------|-------|---------|-------|
- 問12 弥生時代に大陸から稲作が伝わると、収穫のための道具として磨製石器の一種が広く使われるようになりました。中央に2つの小さな穴が開いた半月形の形状をしており、稲の穂先のみを摘み取るために使用されたこの道具の名称を選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|---------|--------|
| 1. 石包丁 | 2. 鉄鎌 | 3. 磨製石斧 | 4. 尖頭器 |
|--------|-------|---------|--------|
- 問13 3世紀に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏へ使節を送り「親魏倭王」の称号や銅鏡などを得た背景について、当時の日本の状況を踏まえた説明として正しいものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 日本の優れた絹織物を中国全土に普及させ、大陸での市場独占権を皇帝に認めてもらうため | 2. 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため | 3. 魏の軍勢力を直接日本に呼び寄せ、反対勢力を武力で一掃して一気に領土を拡大しようとしたため | 4. 中国が日本に対して朝貢を強制し、従わない場合は貿易を禁止すると通告してきたため |
|--|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稻耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問2	答え 3 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問3	答え 2 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問4	答え 3 稲作が始まり、土地や水の利権、蓄えられた食料をめぐる集落同士の争いが激しくなったため。	縄文時代の狩猟・採集中心の生活から、弥生時代の稲作中心の生活へ移行すると、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐって貧富の差や集落間の対立が生まれました。こうした紛争（戦争）の証拠として、防御用設備を備えた環濠集落や、矢を射込まれた人骨などが各地で発見されています。
問5	答え 1 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問6	答え 3 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問7	答え 2 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐって集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問8	答え 1 3世紀	世紀の計算は西暦1年を起点として100年ごとに区切るため、各世紀の終わりの年は必ず100の倍数になります。1世紀は1年～100年、2世紀は101年～200年となるため、201年から始まった3世紀は、300年をもってその区切りを迎えることになります。301年からは4世紀に入ります。
問9	答え 3 豊作などを祈るための、祭りの道具	弥生時代に大陸から伝わった青銅器は、銅とスズの合金で作られていました。当初は武器としての形を持っていましたが、日本では次第に大型化・薄型化し、実際に使う武器としてではなく、集落の豊作や繁栄を祈るための祭りや儀式的道具（祭祀具）として発展しました。銅鐸は特に近畿地方を中心に多く発見されています。
問10	答え 3 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問11	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問12	答え 1 石包丁	弥生時代に稲作が本格化する中で、収穫用具として石包丁が誕生しました。石を磨いて作られた磨製石器で、穴に紐を通して指に固定し、手のひらで包むようにして稲の穂を一つひとつ摘み取る「穂首刈り（ほくびがり）」が行われました。のちの時代に鉄製の鎌が普及するまでは、この石包丁が収穫の主役でした。
問13	答え 2 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため	当時の日本（倭）は、多くの小国が対立し合う「倭国大乱」を経て、女王卑弥呼による連合体である邪馬台国が形成された時期でした。依然として国内には対立勢力が存在していたため、卑弥呼は圧倒的な文化と武力を持つ魏の皇帝から「倭王」として認められることで、自らの統治能力と地位を盤石にしようと考えました。